

情報クリップ

農業情報ピックアップ

2/5 遊休農地放置に罰則

農林水産省は、耕作せず放置されている遊休農地の耕作を促すため、特に問題がある農地を市町村が認定し、所有者に利用計画提出を義務づける新制度を03年度から導入する。
違反者には10万円以下の過料を科し、全農地の約1割とされる遊休農地の利用を図る。今国会で農業経営基盤強化促進法を改正する方針。
(朝日)

トピックス

1/18 ネット就農相談を支援 脱サラの「先輩」が回答

農水省はこれから農業を始めた人が抱える疑問や悩みについて、脱サラして農業に従事した人たちが「就農サポーター」として、インターネットを通じて答える全国農業会議所の事業を支援することを明らかにした。
同省によると、就農した先輩らがネット上で相談に応じる取り組みは珍しいという。相談は4月から受け付ける予定。
(時事)

1/21 野菜の加工処理を生産地で 野菜を生産地で加工処理すること

とで、省エネや再資源化を図る物流システムをつくらうと、関西経済連合会系の非営利団体「アイ・エス」が研究会を設立した。
05年春までに事業化する方針。
野菜を生産地の工場で清浄、カットすれば、発生した生ごみを肥料などにリサイクルできる。研究会では、このほか減菌処理や段ボールを使わずに再利用可能な樹脂製容器を導入するシステムづくりも検討していく。
(共同)

2/2 昨年の外食産業売上高 1・7%増

日本フードサービス協会がまとめた昨年の外食産業市場動向調査によると、全店ベースの売上高は前年より1・7%増と、94年から9年連続で前年実績を上回った。新規出店が順調に伸びて店舗数も5・0%増えたことに伴い、客数も5・3%増えたことが貢献した。ただ、客単価は逆に3・4%減るなど財布のひもはきつく、売上高の伸び率は過去最低の水準に鈍化している。
(読売)

トレーサビリティ

産物運送業者などの関連事業者が、農地法が定める制限比率を超えて出資することを特例として認める。出資制限の緩和は原則5年の時限措置だが、再認定を受ければ、延長も可能にする方針。
(時事)

1/14 青果の履歴閲覧を実験 独立行政法人「食品総合研究所」

は、スーパー「ジャスコ」を展開するイオンやコープこうべと協力して、消費者が青果の生産履歴をホームページで閲覧できるようにする実験を始めること発表した。
商品に添付された8桁の番号を、携帯電話やパソコンで各社のHPに入力すると生産者の氏名、写真や、肥料、農薬の使用状況が表示される仕組み。
(共同)

1/15 ICチップで生産履歴照会 農業者でつくる日本農業IT化

協会などは、野菜や果物を詰め込んだ箱などに超小型のICチップを張り付け、生産から流通までの履歴を照会できる仕組みを開発し、4月から順次導入すると発表した。既に、山形県内のスーパーなどと導入計画を進めているという。
ICチップは、大手電機メーカーが開発した0・4mm角の製品を使用。生産者が入力した栽培情報などを結び付ける役割を持つっており、バーコードなどと比べ改ざん防止に優れているという。
(共同)

1/21 牛肉履歴追跡、違反業者に罰則

農水省は牛肉の生産から流通までの履歴をたどる「トレーサビリティ」整備のため、各段階の事業

狂牛病

1/19 餌の共通性が焦点 和歌山県で国内6頭目のBSE

の感染牛が確認された。これまでの5頭にも共通する餌の代用乳がこの牛にも与えられていたが当面の焦点だが、原因究明には時間がかかりそうだ。
過去5頭のうち3頭は北海道産、残る2頭は群馬県と神奈川県に生まれた。4頭目までの出生時期はいずれも1996年3月下旬から同年4月上旬までの約2週間に集中していたが、5頭目は95年12月とやや時期がずれていた。
(共同)

1/23 北海道で7頭目のBSE BSEの全頭検査で国内7頭目

の感染牛が北海道で見つかった。1996年3月に道内で生まれた高齢乳牛で、出生時期は過去6頭と近接している。
この牛は96年3月28日に北海道湧別町で生まれ、網走市の酪農家が飼育していた。
(共同)

1/24 7頭目の牛生産の農家 同じ代用乳を購入 北海道で飼育された雌の乳牛が

国内7頭目のBSEと確認された問題で、感染牛を生産した湧別町の酪農家が、過去6頭の感染牛に与えられていたものと同じ代用乳を購入していたことが分かった。

購入していた代用乳は、全農の子会社「科学飼料研究所」が製造した「ミルフードAスーパード」。(毎日)

1/25 疑似患畜処分緩和に慎重
和歌山県内で今月中旬、国内6頭目のBSE感染牛が見つかった問題で、北村農林水産副大臣がこの牛を生産した北海道標茶町を訪れ、農協関係者と懇談した。

町側は、国際獣疫事務局の基準に沿い、感染牛と同居するなどしていた牛を疑似患畜として処分する現在の方法が、生産者の営農再開を圧迫するとして、指定範囲の緩和を要望した。

懇談後に記者会見した北村氏は「国が(緩和を)強引に推し進めれば、かえって風評被害を招く。日本が独自基準でやるためには、国民の理解が不可欠だ」と慎重な見方を示した。(共同)

WTO交渉

1/25 米国や豪州と日本、EUの溝埋まらず

WTO農業交渉は特別合意を開いたが、関税の一律大幅引き下げなど急激な自由化を求める米国や豪州などの輸出グループと、品目ごとに柔軟性を持たせるなど緩やかな市場開放を主張する日本やEUとの溝は埋まらないままに終わった。

昨年のドーハ閣僚合意で合意した3月末までの自由化方式の大枠

(モダリティ)決定はきわめて厳しい情勢になった。(毎日)

1/29 コメ輸入拡大に反対、自民党内に議連発足へ

WTOの農業交渉に対応し、コメ輸入拡大に反対する議員が中心となる連盟「WTO交渉支援議員団」が近く自民党内にできる。政策調査会とは別に、政府に強い姿勢を求めるのが狙いだ。議連の团长には桜井新参院議員が就任、谷津義男、松岡利勝、武部勤の各衆院議員ら農林族約10人が名を連ねる予定。(朝日)

1/31 EU案支持を正式発表

大島農相は、WTOの農業交渉問題に触れ「EUが既に提出している交渉案を支持する」との考えを正式に表明した。

EU案は品目によって高関税率を維持できる方式を採用しており、農産物の税率を平均で36%、最低で15%引き下げることが柱。農相は「実質的に日本が数字を提案したのと同じ」との見解を示した。政府は来週にもWTO事務局にEU案支持を伝える予定。(共同)

1/31 表明は賛同できる「全中会長

WTOの農業交渉に絡み、大島農相がEU提案支持を表明したことに伴って、全中の宮田会長は「EUとの連携を重視した表明は賛同できる」とのコメコメントを発表した。

宮田会長は、主張が対立する米国などと厳しい交渉が予想されることから、「政府・与党と一体となり、国際的な仲間づくりや連携強

化を図る」としている。(共同)

特定農業

1/23 特定農業の指定中止を要求

有機農業を推進する農業者や消費者の26団体は、無登録農業の使用禁止に伴い、農水省が進めている特定農業の指定作業を中止するよう同省に申し入れた。

6団体は安全な食品を目指し、化学合成農薬を避ける工夫で害虫駆除に牛乳などを使っているとし、特定農業の指定を含め農薬取締法による規制からの一括除外を求めた。(共同)

1/30 アイガモ、重曹は使用可

アイガモや重曹は農薬代わりに使えます。無登録農薬の使用禁止に伴い、登録しなくても使える「特定農薬」の指定をめぐり農水、環境両省の諮問を受けた有識者らの会合が開かれ、特定農薬として①重曹②食用の酢③周辺で採取された寄生バチなどの天敵を指定するのが妥当との答申をまとめた。また、アイガモや牛、熱湯などは農薬に当たらないとして規制対象から除外。牛乳と米ぬか、木酢液など大半は「薬効と安全性が不明」として判定を保留した。(共同)

「又」改革

1/17 農家に情報提供が任務

東北農政局長に就任した林局長は記者会見し、コメの生産調整(減反)など農家が抱える問題に対応する上で「個々の農家が的確に判断ができるよう情報提供する任務を負っている」と述べ、地方農政局の役割を位置付けた。

林局長は「コメは消費の減退基調が続く一方で生産過剰で生産調整面積は拡大を続けており、コメ問題は袋小路に入っている」とした上で、「消費者のニーズに応じたコメ作りと自給率の低い大豆、麦の生産拡大を通じて水田農業の安定、拡大を図り、(農業の)担い手を育成することが課題」と抱負を語った。(共同)

3月のイベント

(国内)

●2003スーパーマーケット・トレードショー 3月5~7日

会場 東京ビッグサイト

内容 スーパーマーケット、セルフサービス店、小売店で販売される食料品・雑貨、販売を円滑に行うための設備・機器・システムを紹介

主催 日本セルフ・サービス協会

問い合わせ 03-3255-4825

公式サイト <http://www.jssa.or.jp/smits/>

●FOODEX JAPAN 2003 第28回

国際食品・飲料展 3月11~14日

会場 幕張メッセ

内容 アジア・環太平洋地域で最大の、世界でも3番目の規模を誇る食品・飲料専門展示会

主催 日本能率協会

問い合わせ 03-3341377

公式サイト <http://www.jma.or.jp/FOODEX/en/>

(海外)

●IFE 3月23~26日

会場 Excel (イギリス・ロンドン)

内容 イギリス最大の食品・飲料見本市。ケータリング・小売・御

売用食品・飲料を紹介

主催 ジャパン・エキシビション・サービス

問い合わせ 03-3354-1890

公式サイト <http://www.ife.co.uk/>

見直しなども盛り込む。(共同)